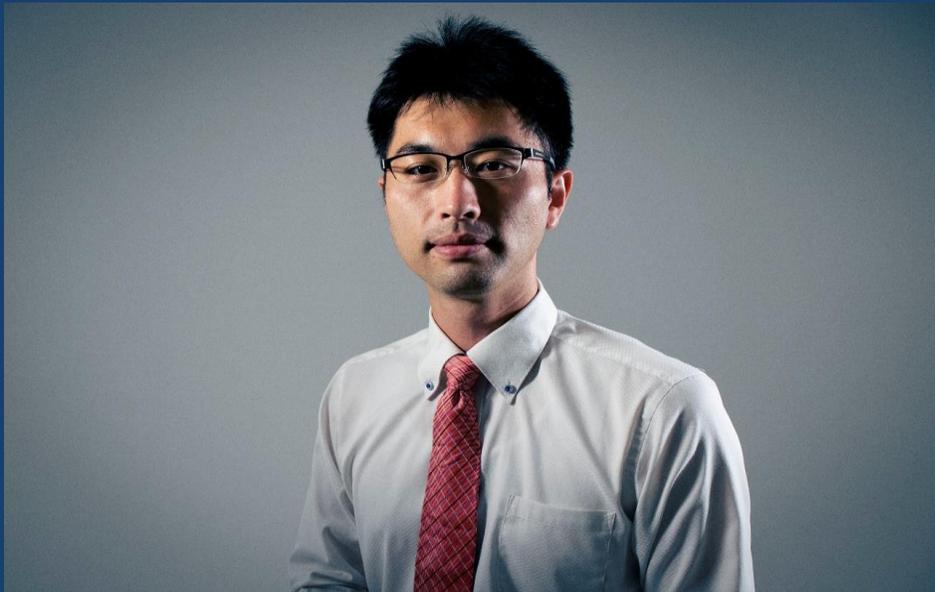


NTTDATA 豊洲の港から定例会 登壇資料（公開版）

2021/08/20

自己紹介



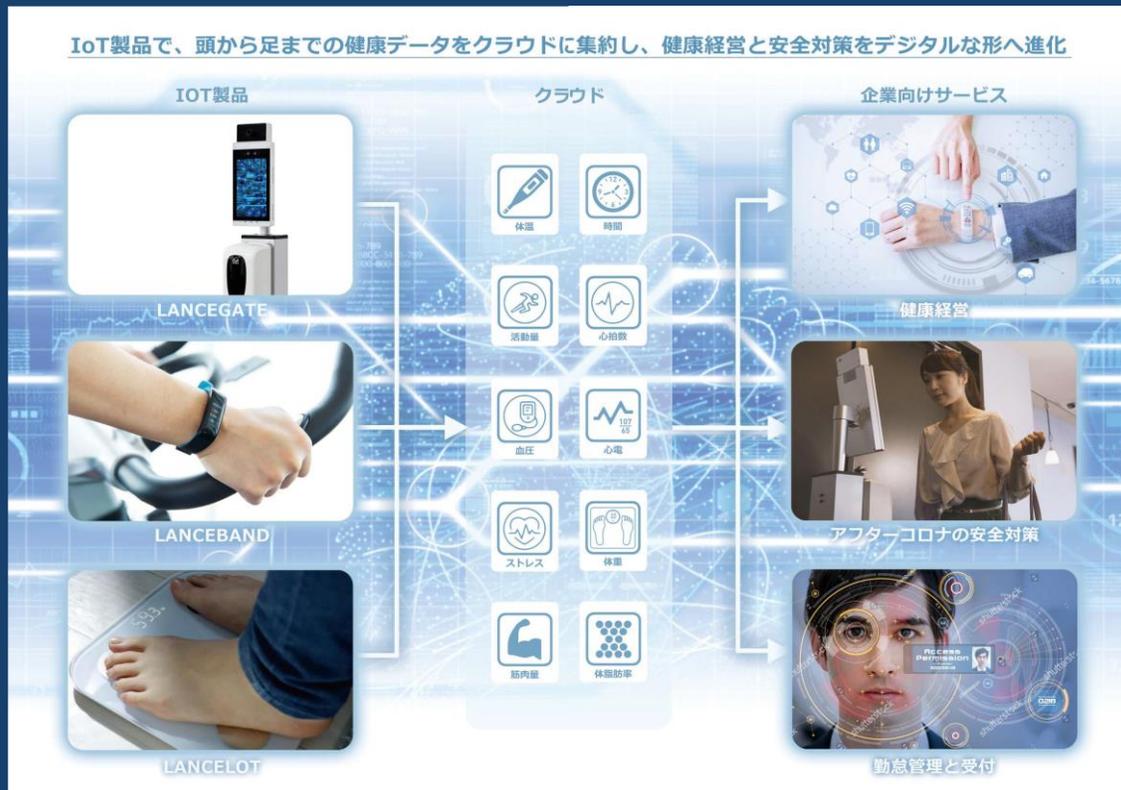
- ・ 2006年 中国の高校を卒業 日本留学
- ・ 2007年 東京工業大学工学部 入学
- ・ 2012年 ノルウェー工科大学 交換留学
- ・ 2013年 アクセンチュア戦略部門 入社
- ・ 2015年 MedVigilance 立上げ

MedVigilanceは、健康 x IoTを主軸にビジネスを展開しており、「人の頭から足まで全身のバイタル情報を可視化」は本業の強みである。現在、合計14名の社員があり、大学認定ベンチャーとして、東京工業大学田町キャンパスに入居している。

主な製品・サービスは

- ① ウェアラブルデバイスを活かしたデジタル健康経営サービス、
 - ② AI顔認証付検温器を土台とした、非接触受付ロボットの提供
- があり、主なクライアントは、東証一部企業、官公庁、大学、医療機関である。
ISO9001:2015認証、ISO13485医療機器製造販売業認可を申請中。

会社概要



・ 会社名：MedVigilance株式会社

・ 設立：2015/8

・ 資本金：9800万円（準備金含む）

・ 事業内容：健康IoT商品の開発と販売

・ 取引実績：京都大学、東京工業大学、神奈川大学、大和ハウス工業、コナミスポーツ、横浜市、沼田市

本業：頭から足まで、健康のDX化

ハードウェア



データ

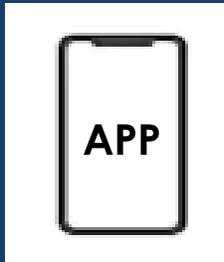
体温、顔写真

活動量、SPO2、
体温、睡眠

筋電、運動速度
回転速度

体重、体脂肪
骨量、基礎代謝率

アプリ



クラウド



コンテンツ



マイナンバーと金融

弊社の考え

新型コロナ禍で、行政の効率化とDXを本格的に推進している

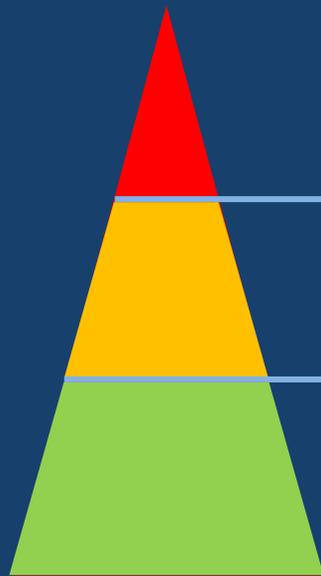
金融機関では、本人確認の効率化され、メリットが大きい

マイナンバーは交付率は3割前後だが、普及が加速する可能性が高い

個人データ、サービスの中核は自治体、金融機関管轄であり、ベンチャー企業として、デバイス提供者として参与する準備を

弊社との接点1：マイナンバー + 顔認証

- ・ 提供価値：実際来る人とカードの照合を行う
- ・ 想定利用場所：ワクチン接種現場、各種施設チェックイン
- ・ 主要課題：普及率、顔・カードの個人情報提出に対する抵抗



公的機関以外、出したくない：免許、社員証、医療保険証

抵抗は多少あるが、出してもOK：クレジットカード、Suica

普通に出してOK：一般企業の会員証・メンバーシップカード

弊社との接点2：金融 X 顔認証

- ・ 提供価値：カード・現金を出さずにすぐに買い物できる利便性
- ・ 事例：自動販売機、無人コンビニなど少額支払
- ・ 課題：
 - ・ 認識の精度、大きい金額には不向き
 - ・ クレジットカードまたはアカウント紐づけの登録手間
 - ・ 現行システムとの競合性

顔認証 X 金融（少額支払い）の事例

自動販売機 x Alipay



日本での実証実験

顔認証決済の自動販売機。財布やスマホ不要。
マスク着用可。ダイドードリンクが運用開始

2021年05月05日 09:16

いいね! 0 ツイート B! 0 LINEで送る Check Pocket



2017年から中国で顔認証による無人コンビニの開店ブームがあった。期待されたほど利用率が伸びずその後多くの店舗が閉店したようだ。しかし、2020年になって新型コロナウイルス感染症の流行で他人との接触を回避する無人コンビニの利用が増え始めたという。日本でも2018年よりコンビニ各社が顔認証・レジ無しの実験店舗をオープンしたが、今のところ大きな普及には至っていない。

最後の一言

NTT DATA中にもIoT、ロボットのPJがある伺っており、ご興味がある方、ぜひ気軽にご連絡・お越しく下さい。

MedVigilance株式会社

gc@medvigilance.com

TEL: 080-3573-5876

港区芝浦3-3-6東工大CIC5階（JR山手線田町駅芝浦口徒歩1分）